

編集後記

昭和60年卒 草場 律

現役のときに創部40周年を迎え、50、60周年は部誌の編集委員として関わって来たが今回はそれに加えて三田バドミントンクラブ幹事長として70周年に関わることになりました。学生時代は、強く思わなかったが、最近年を歳をとったせいかわき血を聞くと自分が慶應の一員だったことを思い出されて、まさに血が騒ぐ。若き血を蘇らせる一助になればと思います。

平成19年卒 広田 崇

編集長として本誌編集活動を行いました。本誌は、直近10年の出来事を「当事者の言葉で残し、感じていたことを伝える」という点にこだわって作製しました。「あの出来事はいつからやっているのか?」「どうして始まったのか?」という体育会バドミントン部における様々な問いかけの答えが本誌にはあります。過去の活動の振り返りが今後の活動の糧となることを願って止みません。体育会バドミントン部の更なる発展をお祈りいたします。

平成20年卒 坂根 宏志

当部誌を作成するにあたり、寄稿等により御協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。急な寄稿等のお願いにも快く引き受けてくださり、これこそ慶應の絆だと実感しました。何十年後になっても、当部誌により当時の様子を思い出していただければ幸いです。

平成21年卒 和栗 恵

70周年記念部誌の編集にあたって、10年間の記録として懐かしいものが沢山ありました。編集作業は大変な部分もありましたが、携わることができてとても光栄に思います。現役を過ごした皆様、部を支えるOBの皆様に楽しんでいただければ幸いです。

平成24年卒 野村和秀

今回こうして70周年記念部誌の編集に携わることができたことを光栄に思います。迫りくる納期との戦いで、編集作業は決して簡単なものではありませんでしたが、作業を通して自分の知らなかった我が部の歴史を知ることができ、私自身貴重な経験になりました。これからも我が部の発展に微力ながら貢献していけたらと思います。

その他編集員等参画およびご協力いただいた方々(年次順)

小杉 良雄(昭和36卒)、高井 貞夫(昭和36卒)、福山 節子(昭和51年卒)、
五月女 季孝(昭和60年卒)、奥出 裕充(平成6年卒)、前田 賢志(平成21年卒)、
川口 太希(現役)、阪本 暁洋(現役)、寺内 俊樹(現役)